

知識集約型社会を支える人材育成事業
令和3年度現地視察報告書

知識集約型社会を支える人材育成事業委員会

大学等名	大正大学	整理番号	4
メニュー	メニューⅠ 文理横断・学修の幅を広げる教育プログラム		
事業計画名	新時代の地域のあり方を構想する地域戦略人材育成事業		

1. 進捗状況の概要

- ・ 本事業計画の目的に照らし合わせた申請時の理念や内容が確実に実現化しつつある。
- ・ 学融合の考え方が、第Ⅰ類科目、第Ⅱ類科目及び第Ⅲ類科目の各対象教育プログラムに反映されており、計画どおりに着実に実行されている。
- ・ 「チューター」を含む学生の教育に関わる者の間で、情報共有や取組検討の機会がしっかりと準備されており、教員間での円滑なコミュニケーションが実現している。
- ・ 「データサイエンス科目」を含む第Ⅰ類科目の活動は、他の人文社会科学系大学のモデルにもなるべき取組である。具体的には「チューター」を入れたチームティーチングを実現化し、細やかなフォローで大学での学びのスタートを支援しているほか、ICT活用によってコロナ禍においても学びを止めないシステムを構築している。
- ・ 「データサイエンス科目」必修化について、学生自身がその有益さを理解し、将来、自分自身のキャリアに役に立つことを認識しているプログラムとなっている。
- ・ 第3の職種と呼ばれる「チューター」を自学で育成し雇用するという、持続性が高いシステムを構築している。
- ・ 人生100年時代に学生の成長に寄り添うことをやりがいとする第3の職種「チューター」を設定し、セカンドキャリア、デュアルキャリア、パラレルキャリア等の多様な働き方を可能にする場を作り、学生教育の質向上に役立っている。
- ・ 全教室Webカメラ設置やBYODなどDX化を進めており、ハイフレックス授業等、個別最適な学びを支援している。

2. 課題・意見(改善を要する点、指導・助言内容)

- ・ ガバナンス体制については、いまだその意思決定のプロセスが不明瞭との印象を受けた。学長を中心とした何事にも迅速に対応できるマネジメント体制の構築を検討いただきたい。
- ・ 本事業計画と学士課程教育との関係性を整理いただきたい。特に付与される学位の根拠である専門教育との関係性をディプロマ・ポリシーも含めて明らかにする必要がある。
- ・ 第Ⅱ類科目、第Ⅲ類科目の取組は年次進行で進んで行くことに加え、第Ⅲ類科目については選択科目にもなることもあり、学生との意見交換においても第Ⅱ類科目及び第Ⅲ類科目に対する認識が浸透していなかったことから、今後はさらに学内広報にも力を入れていただきたい。
- ・ 第Ⅰ類科目、第Ⅱ類科目を必修で学修した後、本事業計画に係る授業を選択する学生、そうでない学生と様々なカリキュラムのバリエーションが生まれることになる。それらの学びの特性について、学修成果を可視化することによって明らかにしていただきたい。